

おわりに

わが家にとっては2度目の中学受験。思いもよらない形でスタートしましたが、やっぱりやって良かった、挑戦して良かったと思える素晴らしい経験になりました。今まで真剣に勉強に取り組むことのなかった次男が、小6の夏から進学塾に通い、週に2～3日学校が終わってからや、週末は朝から夕方まで頑張る姿は今思い出しても、グッときます。夜遅くに車で迎えに行き、駐車場で待っていると、いつもの飄々とした表情で現れたり、元気な表情だったり、少し疲れた表情だったり、車で10分くらいの帰り道がとてとてもとても良い思い出です。

今回の受験で改めて思ったことは、合格してもしなくても目標に向かって努力することは本当に素晴らしい。初めて本気の努力をするには、とても良い年齢だと思います。結果と過程どちらが大事か？なんて良く言われますが、大人になれば結果しか見なく

なる傾向が強くなるように感じます。スポーツや勝負の世界では勝つ人（チーム）があれば、必ず負ける人がいる。しかし本来、成人して社会人として仕事や家事や子育てをしていけば、勝ち負けが付かないことの方が多くなります。仕事では結果を出さないといけないけど、結果しか評価しない上司や会社は社員に厳しいノルマを課すことになる。ノルマ達成のために、社員は手段を選ばず、過程を重視せず、結果を出すことを厭わなくなる。そう言う社員や会社が引き起こした不祥事により、その後どうなったかは皆さんも知っていると思います。家事や子育ても実感されているように、勝ち負けではありません。結果を出すために如何に過程が大切か。もともと過程がなければ、結果は生まれない。だから私は過程の方が大切だと思っています。過程さえしっかりしていれば、何度でもやり直すことも可能です。

ちなみに、私の教育コラムで頻繁に登場する『学力の経済学』では結果に対してフォーカスする親子関係を、きちんとしたエビ

ダンスを示して否定的に捉えている。テストで 100 点とったら、お小遣い（ご褒美）をあげると言った、結果に対する評価より、より良い結果に向けて努力する過程を評価することが、学力の向上に繋がる。過程を評価するとは、つまり結果に向かって努力している姿・姿勢を認めてあげること。某自動車メーカーの随分昔の CM の「モノより思い出」じゃないですが「モノより思い・思い出」だと思います。

次男のヒヤヒヤもんの今回の中学受験は私たち夫婦や兄姉妹に忘れることの出来ない思い出になりました。結果に囚われず挑戦したこと、あの時受験したいと言ってくれた次男に心から感謝しています。あ・り・が・とう、有難う！（2020 年に延期になった東京オリンピック招致の時の決め台詞より、コロナ禍での 1 年を無事過ごせた思い出と共に）

2021 年 1 月

はじめに同様、おわりにも抜粋版の一部ですが、
全文掲載いたします。

Copyright Shingo Yamada All Right Reserved.